

NPTに係る共通基盤の形成を求める平和首長会議共同アピール

2019年5月10日

平和首長会議会長 広島市長 松井一實

副会長 長崎市長 田上富久

副会長 デモイン市長 フランク・カウニー

2019年5月1日、NPT再検討会議準備委員会に参加している各国代表に対し、我々は他のNGOとともにスピーチを行いました。そして今日、来年国連で開催されるNPT再検討会議への期待を込めて、本共同アピールを發出します。

我々は、NPTを第二次世界大戦後に結ばれた最も重要な条約の1つと考えています。締約国は国連の加盟国数には及ばないものの、本条約は、核兵器の存在や拡散から解放された世界においてのみ、国際平和・安全保障は強化されるという基本命題に対するグローバルな合意を具現化した条約です。また、核兵器国に対して核軍縮に向けた誠実な交渉を義務づけている唯一の多国間条約であるとも認識されています。

条約発効から50周年を迎える2020年に開催され、歴史的な節目を迎えるNPT再検討会議を前に、全ての締約国に対して、本条約の基本的な目標と目的に関する共通の基盤を広げることに関心を置いた議論を行うよう求めます。NPTの今後の成功は、締約国が条約の履行やその主たる目標の達成を確実に進めていくことを約束し、いかに歩み寄って、外交努力を行っていくことができるかにかかっています。

複雑な多国間条約においては、条約遵守の状況や、目標達成の方法論、条約が課す様々な義務の平等性に関する締約国間の意見の相違、そして各国が自国の利益や短期的な優先事項を追求することによって巻き起こる終わりのない競争等により、様々な衝突が起こることを我々は理解しています。

そうした分断により、全ての締約国が尊重する本条約の崇高な共通基盤を脅かすことのないよう、全ての参加国代表に対して要請します。共通の基盤をさらに拡大するために、相違点をのり越えて真剣に対話し、具体的な核軍縮・不拡散措置を確実に進展させるための創造的な解決策を生み出していきたい。我々は、NPTが具現化する国際的な利益は、全ての国家と人々の利益につながるものと考えます。

1955年のラッセルアインシュタイン宣言に印象的な言葉があります。「人類として、人類に向かって訴える—あなたがたの人間性を心にとどめ、そしてその他のことを忘れよ」これは、原爆の惨禍を生き延びた被爆者が、世界や未来の世代に向けて発しているメッセージそのものです。彼らのこの願いを本共同アピールでお伝えするとともに、2020年のNPT再検討会議の成功に向け、対決的安全保障を協調的安全保障に転換するために、各国代表の皆様が勇気あるイニシアティブを発揮してくださることを心から期待しています。